

鉱脈（龍源寺間歩周辺）

この川の対岸にある崖には、斜めに切り立った割れ目や亀裂がたくさんあり、銀の鉱脈が岩を貫いていることを示している。切れ込みの多くは深く、いくつかの切れ込みの近くには細いトンネル口も見られる。鉱夫たちは 1500 年代半ばから、ノミやハンマーでこの山を掘り始めた。彼らは地表近くの鉱脈から銀鉱石を採掘し、その後、豊富な銀鉱脈を山の奥深くまで辿れるように、坑道を掘るようになった。

ここで見られるように、石見銀山の中心である古代の火山、仙ノ山を貫く銀鉱脈は、数が多く、比較的容易に到達することができた。これは 150 万年前の噴出によって、非常に高温の火山灰や一部が固まった溶岩など火山砕屑物が積み重なったことから始まった、偶然で幸運の地質学的プロセスによるものである。この物質が固まって、比較的もろい岩石からなる山になった。

新しく形成された山の地下で火山活動が続くと、マグマが地下水を加熱し、近くの堆積物から銀や銅を含む元素が水中に放出された。その後、金属を含む液体は岩盤の割れ目から上方に浸透し、多孔質の仙ノ山を貫通して山中に銀を運び込んだ。液体が温度と圧力の変化で冷え固まると、粗い岩盤の中に無数の銀鉱脈が残されることになった。